杏林大学病院ニュース

No. 53
発行 2023年10月

地域医療の充実をめざして
関係機関の皆さまとともに

Contents

表
・ハイブリッド救急救命設備を導入
・第７回医療連携フォーラムのご案内
・術後疼痛管理チームの取り組み
・2023 年度診療案内を発行

裏
・診療科紹介
・臨床検査部の業務改善
・市民講座「学びの杜」を放送
・外来棟ライトアップ

編集：杏林大学医学部付属病院
〒 181-8611 三鷹市新川 6-20-2
TEL 0422-47-5511（代表）
https://www.kyorin-u.ac.jp/hospital/

世界に例のないハイブリッドの救急救命設備を導入

高度救命救急センターに、手術室と血管撮影装置、CT の３機能を組み合わせた最新設備「ハイブリッド ER」（Hybrid Emergency Room）を導入し、５月から運用が開始されました。

この設備は手術も可能な血管撮影装置に CT を組み合わせることで、これまで別々の場所で行われていた開腹・開胸手術、カテーテル等の治療（IVR）、CT 撮影による診断の３つの機能を全て高度救命救急センター内に集約したものです。これにより、救急搬送された患者さんの診断・治療をより迅速に行うことが可能となります。

今回導入されたシーメンス社製の装置は、従来の全身用の血管撮影装置に加え、心臓用の血管撮影装置も組み合わせた「ダブル C アーム」となり、世界に類を見ない新しい装置です。これによって精密な画像を基にした全身の治療が可能となり、救急を要する患者さんに対し、これまで以上に迅速に対応することができるようになりました。

心血管内治療や脳血管内治療、外傷による多臓器損傷などの治療に活用していきます。

杏林大学医学部付属病院 第７回医療連携フォーラム

当院では地域の医療従事者の皆様との連携をより一層深めるため、医療連携フォーラムを開催しています。
皆様のご参加をお待ちしております。

開 催 日 程：１１月９日（木）１９時～２１時　会場：杏林大学医学部付属病院大学院講堂
プログラム：【第１部】病院長挨拶、来賓挨拶（三鷹市医師会会長 内原正勝氏）、
患者支援センター紹介
診療科紹介 ① 腫瘍内科 「腫瘍内科における最新の癌治療」
② 腎臓・リウマチ膠原病内科「CKD 対策の現況と診療連携の重要性」
【第２部】情報交換会
要事前申込み：詳細は患者支援センター地域医療連携にお問い合わせください。
0422-47-5511（内線 5147）

◆ 術後疼痛管理チームの取り組み

当院では、麻酔科医・主治医・薬剤師・看護師など多職種による術後疼痛管理チーム（KAPS：Kyorin Acute Pain Service）が、患者さんの術後の痛みや吐き気などを緩和させるサポートを行っています。

現在は、消化器外科、婦人科、脊椎外科（整形外科）、心臓血管外科などで手術を受けた患者さんが対象となります。術後の疼痛を早期に和らげることは、予後の回復速度にも好影響があることから、今後も専門性の高いチームによる活動を促進させていきます。

◆ 2023 年度 診療案内を発行

冊子をご希望の際は、
患者支援センター地域医療連携へ
TEL: 0422-47-5511（内線 5147）

診療科紹介

■■■ 乳腺外科 ■■■

2007 年に開設された当科は、杏林大学の健学の精神である「眞・善・美の探究」のもと、眞「腫瘍学の真理の探究」、善「謙虚たる人材の育成」、美「先進的ながん治療の創造」を目指して、診療・教育・研究に邁進しております。

日本人女性の乳癌は一生の間で 9 人に 1 人が罹患すると推計されています。そこで、診療面では画像診断と組織診断に基づき、各科と連携しながら外科療法・薬物療法・放射線療法を組み合わせた質の高い医療を実践しています。また、BRCA 遺伝学的検査から遺伝性乳癌の方にリスクを低減した乳房切除術と乳房再建術を行っています。さらに、多遺伝子アッセイによる再発リスク評価から必要な方に抗がん剤を投与するようにしています。

教育面では学生と研修医の教育、専門医の育成に努めています。研究面ではトリプルネガティブ乳癌の基礎研究、乳房再建術やセンチネルリンパ節生検の臨床研究、医師主導治験などを進めています。一方、地域連携では三鷹市の検診マンモグラフィー読影、市民公開講座に加えて、三鷹市・武蔵野市・杉並区の医師会から成る「井の頭乳腺疾患研究会」を年 1 回開催しています。

今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

助教 石坂欣大、講師 関 大仁、教授・診療科長 井本 滋、助教 土屋あい
[専門：乳腺腫瘍学]

◆ 円滑な検査運用をめざして 臨床検査部の業務改善

当院では、患者さんの検体検査をより円滑に行うために臨床検査部の業務改善を進めています。5 月には新しい検体検査システムとして、コレステロール・クレアニチンなどの生化学検査を行う分析装置「TBA™-FX8」3 台と、検査項目ごとに血液を検査容器に分注し、搬送するシステム「MPAM ＋ ™」が稼働しています。

この分析装置は、従来に比べ搭載できる検査試薬が 20 項目増え、これまで外部に委託していた数種類の検査項目を院内で分析できるようになり、従来より数日早く検査結果が出せるようになりました。また、検体の仕分けから検査装置への搬送までの流れがより自動化されたことで、全体の検査スピードが向上しました。

今後、年内に血液検体の自動冷蔵システムを導入する予定です。これによって、入院患者さんを中心とした検体の再検査が格段に早くできるようになり、患者さんの病状把握や治療を円滑に行うことが可能になります。

市民講座 学びの杜を放送

本学・付属病院の特色を活かした市民講座“学びの杜”をケーブル TV J:COM 武蔵野・三鷹で放送しています。放送後の動画は大学・病院 HP でもご覧いただけます。

【2023 年度医療健康系講座一覧】

たばこの害と禁煙の重要性 ～禁煙により健康な生活を送るために	呼吸器内科 石井晴之 教授
介護予防とリハビリテーション ～呼吸法も取り入れたトレーニングの実践	ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ学科 一場友実 准教授
いま増えている炎症性腸疾患 ～課題と治療	消化器内科 久松理一 教授
知っておきたいヒートショック対策 ～入浴・サウナを楽しむために	救急総合診療科 長谷川 浩 教授

◆ 外来棟ライトアップ

様々な疾患に関する世界での啓発活動に合わせて、外来棟をライトアップしています。
9 月には、世界アルツハイマーデーに合わせて 4 日間オレンジ色にライトアップされました。